



# 自己紹介

## 小山田 大和



- 1979年生まれ。42歳。学生時  
から地域の活動に関わる。小  
田原市行財政改革検討委員  
(09-10)社会教育委員、二宮町  
地球温暖化対策事業化実施  
研究会委員、松田町自然エネ  
ルギー 活用に関するあり方  
研究会、木質バイオマス利活  
用検討委員会委員を経験。

合同会社小田原かなごてファー  
ム 社長

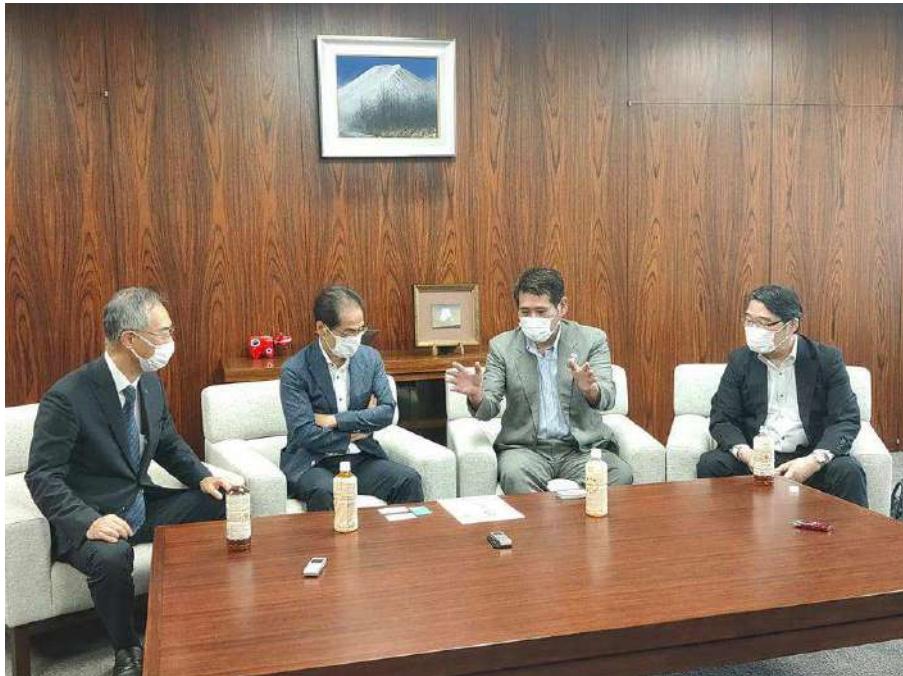
松田町再生可能エネルギー協議  
会委員

早稲田大学招聘研究員



# 2021年度 本の出版へ

- ・『仮称)未来は現場(ここ)にある』
- ・前川喜平(元文部科学事務次官)、古賀茂明(元経産省職員)、吉原毅(元城南信用金庫理事長)らとの対談も収録。

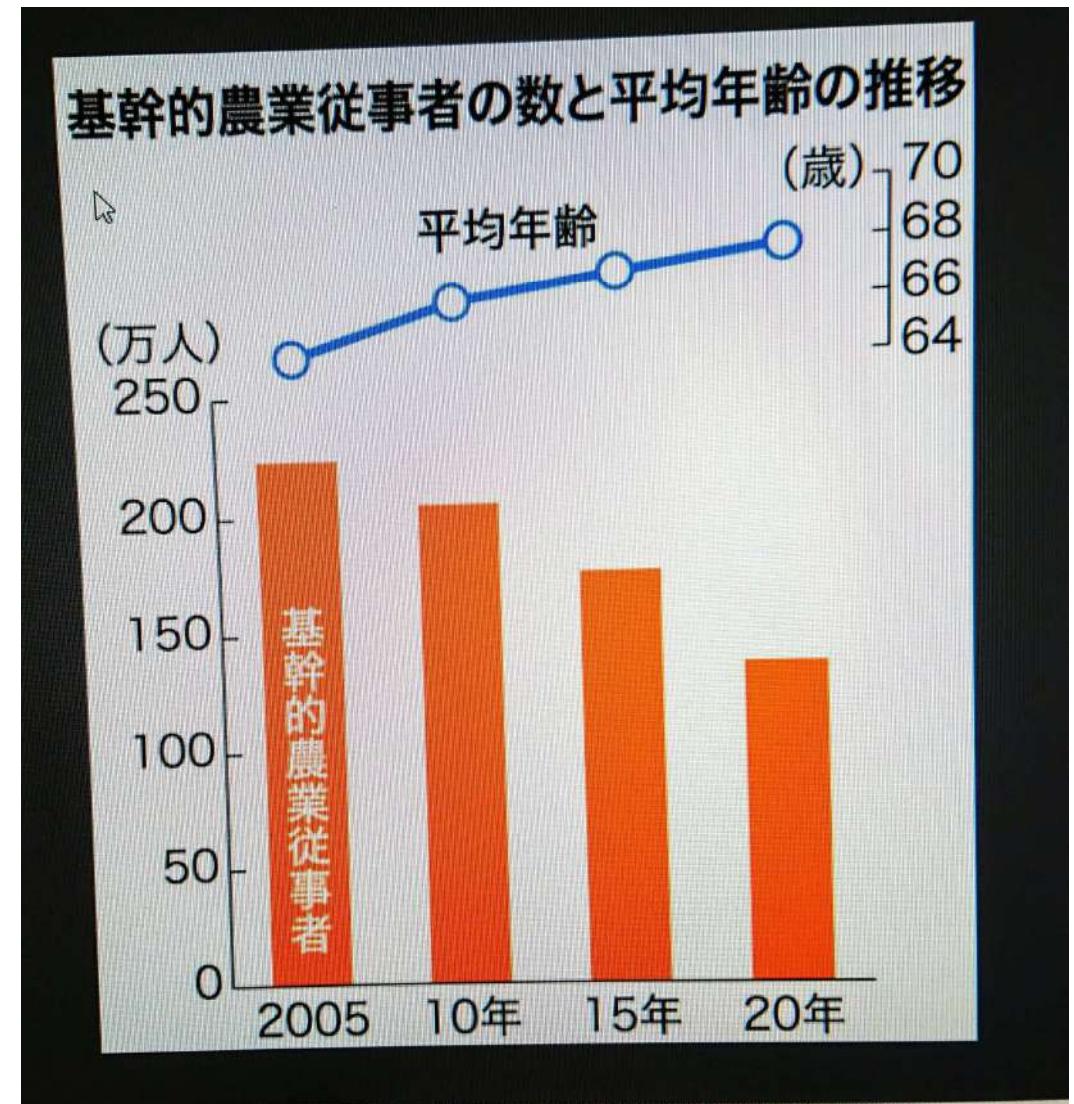


# 日本の農業の現状

## 農業人口136万人の衝撃

- ・ 平均年齢68歳
- ・ 農業人口136万人
- ・ 前回の東京オリンピック時(1964)の1割の水準
- ・ 食料自給率37%
- ・ お米の値段いくら？
- ・ みかんの値段いくら？

→持続可能か？



# 農の附加価値を高める動き

おひるねみかんジュースの開発(2014年)

2021年度からは JR東日本 スイート・トレイン四季島、  
星野リゾート界箱根、強羅温泉 季の湯 雪月花 等に採用



# 小田原かなごてソーラー事業概要 1号機

施設概要	施設名	小田原かなごてソーラー太陽光発電所		
	所在地	神奈川県小田原市曾我岸604		
事業目的	意義	農業+エネルギー=農業再生！！地域を元気に！！		
農業	生産物	さつまいも		
補助金	事業名称	神奈川県地域主導再生可能エネルギー事業		
	補助金額	136万円		
太陽光設備	モジュール容量	15.12kW	モジュール	京セラ製 270Wモジュール
	架台	発電設備下での営農事業に適した特注架台		
発電事業	売電単価	24円/kWh(税抜) (固定価格買取制度)	売電期間	平成28年11月2日から 20年間
	年間発電予想量	15,997kWh		
	設備の特徴	①特注架台により、発電設備下の日射を確保した配置 ②営農作業を効率的に行えるよう事前から2500mmの高さを確保		
土地	設置面積	279.72m <sup>2</sup>	地目	農地(一部転用)



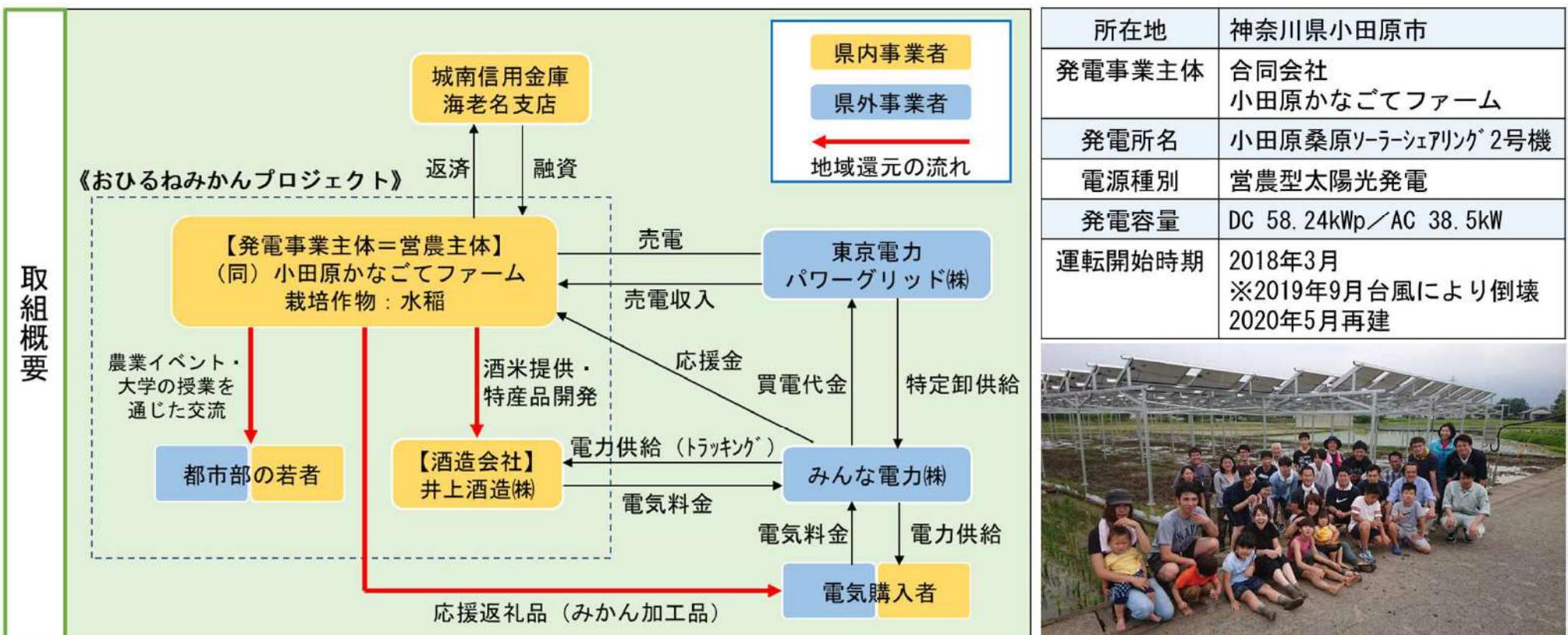
# 小田原かなごてソーラー事業概要 2号機

施設概要	施設名	桑原発電所		
	所在地	神奈川県小田原市桑原字石原88-1		
事業目的	意義	農業+エネルギー=農業再生！！地域を元気に！！		
農業	生産物	米（生産した米は日本酒の原料とする）		
資金	総投資額	14,500,000 円（内設備費用1,330,000 円）		
	融資内訳	城南信用金庫様 9,000,000 円 神奈川県補助金 6,650,000 円（返済義務あり、ただし金利0%）		
太陽光設備	モジュール容量	58.24kW	モジュール	京セラ製 280Wモジュール
	架台	発電設備下での営農事業に適した特注架台		
発電事業	売電単価	21円/kWh（税抜） (固定価格買取制度)	売電期間	平成30年6月から 20年間
	年間発電予想量	62,227 kWh		
	設備の特徴	①特注架台により、発電設備下の日射を確保した配置 ②営農作業を効率的に行えるよう地上から3000mmの高さを確保		
土地	設置面積	812.14m <sup>2</sup>	地目	農地(一部転用)



# 【営農型太陽光発電：合同会社小田原かなごてファーム】 耕作放棄地を解消し、地域の未来を担う人材を育てる事例

- ✓ 小田原かなごてファームは、市民有志ではじまった地域の特産品であるみかんの畠を再生する「おひるねみかんプロジェクト」を通じて、地域に眠る“資産”を活用して地域課題解決に取り組む様々な事業を行っている。その中で、耕作放棄地を活用してエネルギー（電気）と農業を同時に取り組む営農型太陽光発電を始める。
- ✓ 農業イベント等で若い人材の積極的な関与を受け入れたり、生産した酒米は地域内の酒造会社で加工するなど、次世代の地域と農業とエネルギーを担う人材育成や地域との連携を意識して取り組んでいる。



(※)写真提供:合同会社小田原かなごてファーム

所在地	神奈川県小田原市
発電事業主体	合同会社 小田原かなごてファーム
発電所名	小田原桑原ソーラーシアリング 2号機
電源種別	営農型太陽光発電
発電容量	DC 58.24kWp／AC 38.5kW
運転開始時期	2018年3月 ※2019年9月台風により倒壊 2020年5月再建



田植え体験イベント(※)



# ソーラーシェアリング下で出来た自然栽培100%米使用日本酒“推譲”完成



# 各メディアに続々

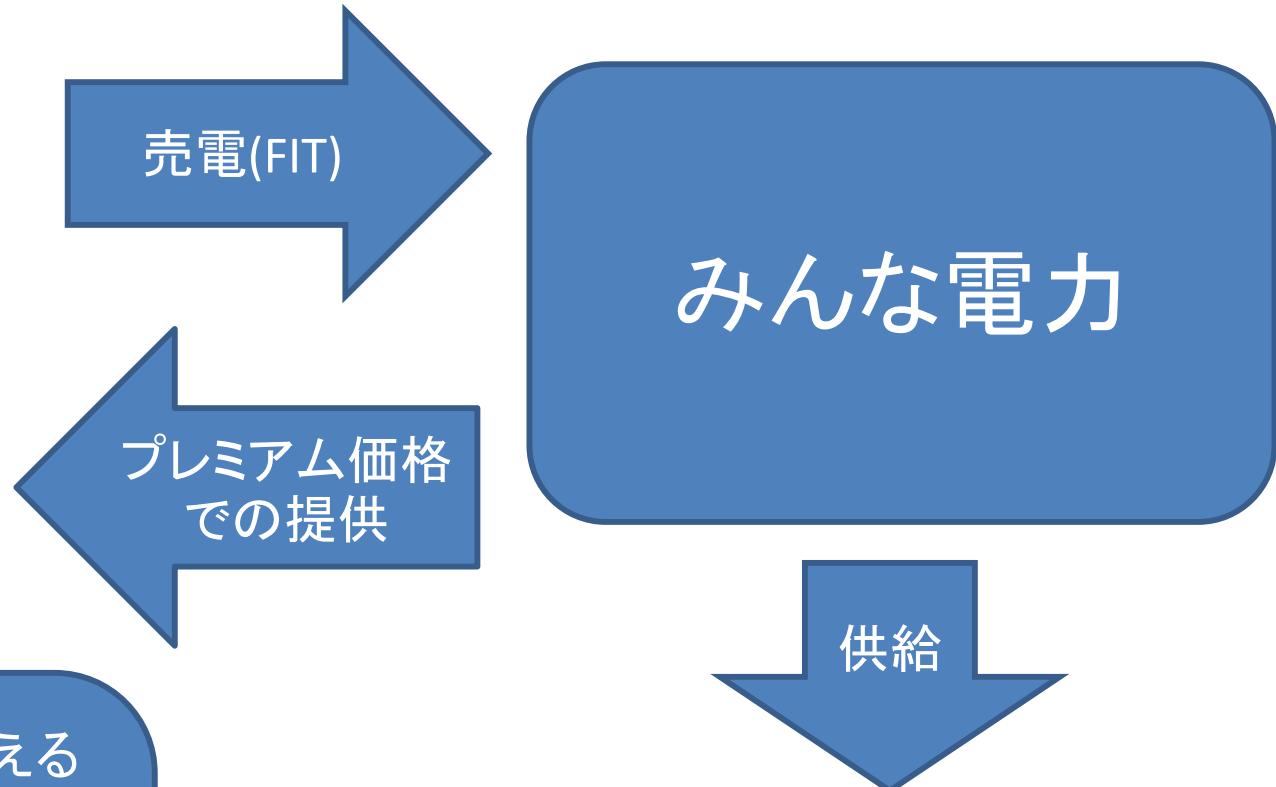


- 小泉元総理、中川秀直元自民党幹事長にも飲んでもらいました。





# 電気の紐づけという選択



みんな電力は更に「顔の見える発電所」として電気のクラウドファンディングともいべき展開をしている。

ユーザー1人1人に電気料金の中から100円が個々の発電所に寄付できる仕組みがある。



**日本YWCA**  
The Young Women's Christian Association of Japan

# 全国初 Non-FITモデル オフサイト型自家消費型のソーラーシェアリング









# 食・エネ自給を目指す農家カフェSIESTA開店



と男を取る。思ふ所にあらずとい人城一に贈る。二三のツ

## 食とエネルギー 地産地消のカフェ

農地でつくった電力と農産物を使い、来客をもてなす農家カフェ「シエスタ」が9日、小田原市成田にオープンした。作物を栽培する農地で太陽光発電にも取り組む同会社「小田原かなごてファーム」が運営。食とエネルギーを組み合わせ、地産地消の活動の拠点にするという。

同社は、野菜や米を生産しながら農地上の太陽光パネルで発電する「ソーラーシェアリング」を小田原市内2カ所で実施してきた。さらに、同市曾比の耕作放

棄地に発電容量約78キロワットの設備をつくった。2月上旬から再生可能エネルギーを扱う電力会社に売電し、一部を既存の送電線を経てカフェに供給。調理と冷蔵庫やエアコンなどに利用する。

カフェの主要な食材は、同社がソーラーシェアリングを実施している農地で採れた野菜や県西地域の産品。9日の「本日のプレート」は鶏の照り焼きに里芋とレンコンやミカンの皮を添えた。シェフの春成太一郎さん(44)は「里芋の唐揚げもお勧めです。南足柄でのびのびと放牧された豚の肉も調理します」。市内と松田町産ミカンの濃厚なジュースも飲める。

代表社員の小山田大和さん(41)は、「小田原での地産地消が足柄平野に広がりつつある。農地で作った農作物と電気を自家消費する仕組みを、食とエネルギーの自給モデルとして全国に広げたい」と話した。

カフェは国道255号の成田交差点から北へ約100㍍。午前11時~午後5時に営業。夜は予約制。不定休。問い合わせは小山田さん(090・7008・4455)。

(村野英一)

は「長い間にはレジデンス」  
●オープンした農家カフェ「シエスタ」  
「小田原市成田」9日目の「本日のプレート」として出された鶏の照り焼き

小田原に開店「自給モデル、全国へ」



# 左)神奈川新聞 右)東京新聞

The newspaper clipping includes several sections:

- Top Headline:** "全国初‘自家消費’" (First in Japan 'self-consumption')
- Text:** "建設中のソーラーシェアリングを前に再エネの自家消費モデルを語る小山田さん" (Before the completion of the solar sharing facility, we discuss the self-consumption model with Mr. Yamada)
- Text:** "—小田原市市長比" (Comparison with the Mayor of Oyama City)
- Image:** A man (Mr. Yamada) stands in front of a large-scale solar panel array under construction.
- Text:** "既存線で送電" (Power transmission via existing lines)
- Text:** "農地に建設 太陽光発電所" (Construction of a solar power plant on farmland)
- Text:** "9日にオープンする農家カフェ・シエスタ" (The農家カフェ・シエスタ will open on the 9th)
- Text:** "小田原市成田にオープンする農家カフェ・シエスタ" (The農家カフェ・シエスタ will open in Oyama City, Oyama)
- Image:** The exterior of the "Siesta" cafe, which has a rustic, farm-themed exterior with a tiled roof and white walls.
- Text:** "価格で買取る固定価格買取制度" (Fixed price buy-back system)
- Text:** "（F-T）の満了や売電単価が次第に下がっていく現状をにらみ、自家消費による脱F-T型モデルを模索した。" (Considering the current situation where the fixed electricity price is gradually decreasing and the selling electricity price is falling, we are exploring a脱F-T type model by shifting to self-consumption.)
- Text:** "全国初のオフサイト方式による再エネ電気の自家消費の仕組みはこうだ。太陽光発電所でつくった電気を新電力会社に売り、既存の送電線を通り電気が新電力会社によりカフェに供給され、それを買う。売電単価などなかなか新電力会社と折り合いかつかなかつたが、再エネ発電による電気の100%供給を目指すグリーンエネルギー・ブルズパワー（GPP）と意念した。
- Text:** "農家カフェの問い合わせは、小山田さん☎090-7008-4455。

# そして、 愛川町で4号機を建設

- ・費用800万円を市民出資を募集。
- ・一口10万円、最低5口以上。でも、10万円でも可能ですよ、としたところ
- ・わずか、1日で800万円が集まってしまいました。出資者は15名。一名は寄付。
- ・「市民の、市民による、市民のための」ソーラーシェアリング発電所の建設へ

食べ物(Food)、エネルギー、福祉(Care)を自給し、地域でお金を廻す。FEC+M自給圏の具体的な取り組みをささやかながら実働させていく。



カフェの生ごみをコンポストで肥料化しソーラーシェアリングで育てた大根、春菊、ほうれん草といった野菜に巻いて栄養分とする。



ソーラーシェアリングで出来た電気をグリーンピープルズパワーの全面支援により、オフサイトPPAの方式で農家カフェSIESTAに届け、電気も自給する。ヤギに草刈りをしてもらう。

ポストコロナ社会を見据えた私が作りたい循環型経済の仕組みが金次郎の里ソーラーシェアリングにはある。

ささやかながら次世代の地域、環境社会のモデルがここにはある、と自負している。

また米を作り、地元の老舗酒蔵 井上酒造に依頼して日本酒推譲を作る。電気は米作りの上で発電した電気を使って製造。日本酒造りで使う電気は一切、二酸化炭素を出さない。

みんな電力のブロックチェーン技術を使って産地証明する。ここにもSDGS経営の具体的な実践がある、と自負している。



